

タイスタディーツアー報告

番外編 ②1

(今回のスタディーツアーでは、) 何よりAWE Pとの関係性から地元の女性たちに歓迎してもらえたことが一番です。あの(ヤオ族の村でいただいた)卵は1個だけ持って帰って飾っています。旧正月に中国に行ったことにはないのですが、最初の村は全くの中国世界と私は思いました、中国貧困地域の支援をしていた私には懐かしい空気でした。

女性たちの手仕事の小物入れやストールを大切に使用させていただきます。顔の見える関係を改めて大切と思いました。ユニークな同行者にも恵まれ沢山の刺激も受けました。

また如田さんというコーディネーターあればこそでした。ほんとうにAWE Pの皆さんには感謝です。参加したかったAWE Pスタディーツアーに行け、タイの風に吹かれて良い気分です。有り難うございました。

でもやはりアジアの女性の地位についてはいろいろ考えますね。私たちだって先進国の女性と言いつつジェンダーギャップ指数110位ですから。これからも私のできることをしたいと思います。

(西海ゆう子・会員)



初めてのタイでしたが、行くところ、食べるものなどすべてコーディネートして下さっていたので、安心して楽しく過ごすことができました。本当に、普通の旅行ではできないことばかり体験でき、参加して良かったです。バーントーファンの方や、訪問した山岳民族の方は、皆さんとても親切で、タイ語は挨拶くらいしかできませんでしたが、身振り手振りでも笑顔で接して下さり、嬉しかったです。料理もどれも美味しかったです。

一方で、生活や環境の変化が大きいこと、山岳民族の子どもに無国籍の子が多いことなど、難しい状況も目の当たりにしました。刺繍をする人が減っているのは残念で、趣味程度でも続けてくれたら…と願ってしまいますが、現地の人々の生活が最優先ですし、住み込みで働いている女性などには生活していく上でそれも難しいだろうと思います。ヤオ族のお家で見せてもらったタイの王室関係の団体から頼まれたという刺繍の安すぎるのにもびっくりしてしまいました。山岳民族にキリスト教が浸透していることは知らなかったのが新しい発見でした。(香取千晴・ボランティア)